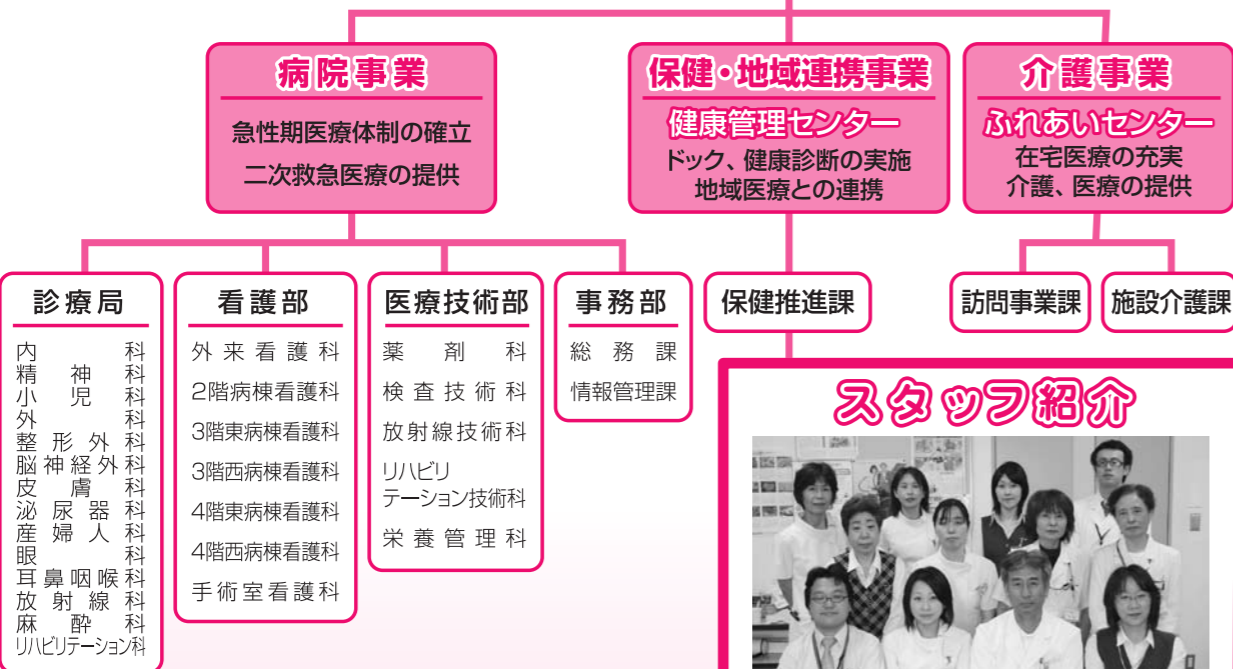


平成22年度 公立雲南総合病院組織図 センター事業紹介



公立雲南総合病院組合 公立雲南総合病院

病院事業
急性期医療体制の確立
二次救急医療の提供

保健・地域連携事業
健康管理センター
ドック、健康診断の実施
地域医療との連携

介護事業
ふれあいセンター
在宅医療の充実
介護、医療の提供

診療局
内科、小児科、外科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、放射線科、リハビリテーション科

看護部
外来看護科、2階病棟看護科、3階東病棟看護科、3階西病棟看護科、4階東病棟看護科、4階西病棟看護科、手術室看護科

医療技術部
薬剤科、検査技術科、放射線技術科、リハビリテーション技術科、栄養管理科

事務局
総務課、情報管理課

保健推進課

訪問事業課

施設介護課

スタッフ紹介



(前列右から) 保健推進課課長：岡田保健師
センター長：末光副院長
保健係係長：渡部保健師
地域連携係：三島相談員
(中列右から) 地域連携係：佐々木看護師
地域連携係：木村看護師
保健係：松浦保健師
保健係：永瀬事務員
(後列右から) 地域連携係：森廣相談員
保健係：須山事務員
保健係：藤原保健師
保健係：曾田看護師

健康管理センターを紹介します！

今年度から保健推進課は健康管理センターとして新たなスタートをきることとなりました。センター長に末光副院長を迎え、スタッフ一同気持ち新たに頑張っています。地域の医療機関をはじめ保健、福祉分野との連携強化をはかり、市と一体化しての地域保健・福祉の充実にむけて取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

地域連携係

病診連携、病病連携、医療福祉相談の3本柱で地域の医療機関、福祉関係機関と連携を取り患者様が安心して通院・入院ができるよう支援させて頂いております。平成19年度から現在の地域連携体制となり、まだまだ完全とは言えませんが、皆様からご意見頂き、更なるサービス向上に努めていきたいと思っております。病診連携は、主に看護師の木村が担当しており、当院から紹介させて頂く病院への予約手続きを行っております。また、医院からの放射線検査予約や小児の予防接種の予約等医療機関だけに限らず、多岐に渡り患者様と病院の橋渡しに頑張っています。病病連携は、主に看護師の佐々木が担当しており、高度医療機関等からの転院相談に対応しています。患者様やご家族の多くは地元の病院でお願いしたいという希望を持っておられ、当院に転院されると大変喜ばれます。医療福祉相談は、主に相談員の三島、森廣の2名で対応しております。雲南圏域は島根県内でも高齢化率が高く、入院している患者様は後期高齢者（75歳以上）の方が多くを占めています。近年では独居や高齢者夫婦などで構成された世帯の患者様が多く、このような患者様が地域で安心して暮らせるよう、関係機関と調整し、患者様を支援できるようこれからも頑張りたいと思っております。

保健係

私たち保健係は、保健師の渡部、松浦、藤原、看護師の曾田、事務員の須山、永瀬の計6名で、人間ドック・健診事業を中心に、健康教室（糖尿病教室、運動教室）、療養指導（糖尿病などの指導）、訪問指導、患者会の支援、集団インフルエンザ予防接種などのさまざまな業務を担い、当院の患者さまをはじめ地域住民の皆さまの健康生活をご支援させて頂いております。今年度は、糖尿病など生活習慣病患者さまへの悪化予防対策としての療養指導や、退院患者様への在宅療養支援としての訪問指導を強化したいと考えています。また、地域の中核病院として、地域住民の皆さまへ安全安心な人間ドック・健診を提供し、健診活動を充実させるよう取り組んでいきたいと思っております。これからも地域の皆さまの声に耳を傾け、ニーズに応じた事業を計画・実行し、「地域のみなさまに親しまれ、信頼され、愛される病院」となるよう頑張りたいと思っております。



松井病院長就任のあいさつ

平成二十二年四月一日付けで公立雲南総合病院の病院長を命じられました松井でございます。紙面を借りまして就任のご挨拶を申し上げます。昨今の地域医療の全国的崩壊を考えますと、このような時期に大変な職責の仕事を任されたことに身の引き締まる思いがしております。さて、ご存じのように当院は平成二十三年度から市立病院となります。それに向けての舵取りが私に与えられたミッションであると考えています。国の医療政策が、効率化の名のもと改悪とも思われる変革を余儀なくされている状況下、当院をどのように導いていくのか大変に難しい状況であります。自治体病院は不採算の分野の医療も行う責任があります。将来も安定した経営を行い、さらに質の高い医療を住民の方々に提供し続けるこ

とは正直容易ではありません。昭和六十二年以来、二十三年にわたりこの病院に勤務させて頂いたとき、この地の医療の実情を少しは理解できていると自負しています。今までの経験を生かして当院の今後の方針について熟慮し、実行することが私の責務であると考えています。そこで、現在考えている方針の一端を述べたいと思います。即ち、医療を中心として、予防及び介護を含めたケアミックスの病院形態をさらに充実させることです。具体的には、保健管理事業、介護事業、医療の3つの柱の責任者を決め、将来的には市と密接な連携を行い、各々の事業を一層充実させたいと思っております。保健・地域連携事業は市のヘルスプロモーションセンターの役割を担うことが出来るように、また、介護事業は当院の強みであるリハビリスタッフの活用で質の高い介護施設として発展させたいと考えています。医療に関しては現在、多くの難問が山積しています。特に医師、看護師のマンパワー不足が大きな問題であります。特に医師の場合、国、大学医局の考えが医師の集約化・重点化に向かっていることです。従来のように大学医局からの医師派遣は大変困難な状況です。あと

数年は地方の医師不足の時代が続くと思われまます。医師の動向が新しい時代に突入していることを、職員の方はもとより住民の方々にもご理解を頂きたいと思っております。数年後には地域枠推薦の医師が誕生します。雲南地方からは毎年二人程度は卒業して医師となる予定です。若くて地域医療に情熱がある医師達が、この地に勤務し続けてくれる環境整備をすることが最も重要と考えています。具体的には島根大学医学部と連携を取りながら、地域に必要なプライマリケアを目的とした総合医療を学び、さらには内地留学を含め専門医療を学べる状況を整備して、医療レベルが落ちないシステムを作ることを目指したいと思っております。最後になりますが、マンパワー、リソース、キャパシティが無いと良い医療は提供できないと巷で言われ、多くの若い医療人が大病院へと流れる傾向にあります。このような状況が正しいかどうかの判断は歴史に任せるとして、当院が将来にわたりこの地の医療を守り、健康づくりに貢献出来る病院として存続出来るべく、住民の方々と対話をしながら努力をしたいと考えています。もとより非力ではございますが、精一杯頑張る所存でございますので、皆様の御指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。